

VCN° J1

Domaine Cyamada

ドメーヌ・オヤマダ
新着ワイン情報



BOW! 2022 (白)

BOW! 白は山梨の峡東地域で栽培したブドウを使用したデラウェアが主体のワイン。デラウェアは朝日が峡東地域では一番に差し込む場所のであり、万力地区の西山、蟹沢、相干場を主体とする。使用するブドウはほとんどが棚栽培である。2021 年より、新しい畑的場が加わっている。2022 年は天候も良く主体であるデラウェアに加え、プチマンサンもよく熟した。

クリームがかった山吹色。和栗感や熟した柑橘、花梨の香りがふわっと香ってくるところに安心感を覚える。パイナップルの香りは澁刺として、いつもの白い花は穏やか。デラに酸がしっかりと残った年であり、酸の伸びはよく充実した果実も感じる。

相干場 (あいほしぼ) : 山梨市万力相干場。棚仕立て。品種はデラウェア。南向きの急斜面の段々畑。

西山 (にしやま) : 山梨市万力字西山。棚仕立て。品種はデラウェア。東向きの斜面。万力における西側の山なので西山。

蟹沢 (かにざわ) : 山梨市万力字蟹沢。棚仕立て。品種はデラウェア。南向きの斜面。

日向 (ひなた) : 山梨市江曾原日向。垣根仕立て。南系のヴィニフェラの混植。南向きの斜面。

大久保 (おおくぼ) : 山梨市東大久保。棚仕立て。品種はプチマンサン、ムールヴェードル。短梢剪定。谷沿いの南斜面。

萱刈 (かやかり) : 山梨市西字南萱刈。カベルネフランでは珍しい棚仕立て。

的場(まとば) : 2021 年より追加 山梨市大工字的場。棚仕立て。品種はデラウェア。日向から西側へ登った斜面。

(ちょっと裏話 BOW! 白)

2022 年の的場の畑では、周りの農家が葡萄栽培を辞めて伐採したことに加えて、繁殖サイクルを断つ手入れを行ったからなのか、昨年苦戦をさせられたブドウオオトリバを急に見なくなった。努力の結果が実った？自然の摂理があった？かー安心をするのも束の間。今度はあまり見ない虫達が湧き始めた。色々な種類の幼虫が出て来てどうやら軸を齧ったり果粒に穴を開けたりするようだ。仕方なく"また"ハサミを持って畑へ出た。その中で 1 種類だけ勢力が大きい種があり一体何に羽化するのか分からなかった。試しに何匹か捕まえて羽化するまで待ってみた。すると、なんと一回り個体の小さなブドウトリバだった。同じような名前と見た目で、幼虫での生態が違うことにとっても驚いた。また対処しなければならない課題が増えただけだが…。幸いブドウオオトリバほど被害は大きくない為、2022 年は無事に収量を確保できた。

デラウェア全体としては、8 月の夜に突然降る雨の影響で、各畑で収穫直前に割れ始めていたが、割れた実を落としたりと、こまめな手入れで逃げ切ることができ良いヴィンテージとなった。発酵も 2021 年の経験を得た事で、もたつかせずに順調に発酵の勢いを保ち、早めに対処する事ができスムーズに進んでいる。



BOW! 2022 (赤)

マスカットベリーAとカベルネフランが主体のワイン。割合は約半分ずつくらいで品種の組み合わせがバランスよく、親しみやすさがある。2022年はカベルネフランが収量こそ良かったもののフェノール分の要素がやや足りない印象で淡い色調とチャーミングな香りを出している。2022年の特徴としては、新たに増えた倉科の巨峰が入ることになり、こちらのブドウの果実味を大きく受けるようなヴィンテージとなった。2022年は途中までブドウの成長は全体としては順調で、果実自体はよく熟していた。しかし、最終的には巨峰の収量は予定の1/3まで落ちてしまい、ピオーネはほとんど収穫することが出来なかった。

収穫したブドウの一部は手で除梗しステンレスタンクで発酵させた。非常に強いラブラスカ種特有の香りとベリーの香り、巨峰をマセレーションした際の特有な苦味などが仄かに感じて面白い。発酵途中、揮発酸が楽しい味わいになって面白い仕上がりの予想をしたが現段階では程度よく落ち着いた様子。

熟れたイチジクの果肉のような色。赤いベリー系の香りはイケイケで過熟なイチゴ、カシスの香り。開けたてはトップから巨峰由来の派手な香りを感じる。野バラのようなグリーンさが相まった白い花の香りも楽しい。味わいは落ち着きがあり、隠れた酸と舌先に残るタニックやカカオ感が締める。

萱刈 (かやかり) : 山梨市西字南萱刈。カベルネフランでは珍しい棚仕立て。

上神内川 (かみかのがわ) : 山梨市上神内川東原。品種はマスカットベリーA。棚仕立て。

大久保 (おおくぼ) : 山梨市東大久保。棚仕立て。品種はブチマンサン、ムールヴェードル。短梢剪定。谷沿いの南斜面。

日向 (ひなた) : 山梨市江曾原日向。垣根仕立て。南向きの斜面。南仏系のヴィニフェラの混植。

★2022VT★倉科(くらしな) : 山梨市牧丘町倉科。棚仕立て。生食用に栽培していた巨峰の畑。南東向きの斜面。

隣接してマスカットベリーAも植っている。

★2022VT★藤木 (ふじき) : 甲州市塩山藤木。垣根栽培 メルロー

(ちょっと裏話 BOW! 赤)

2022年にペイザナが管理する畑が増えた。デラウェア、巨峰、ピオーネ、甲州、さらに新しく開拓している畑もある。嬉しいことに巨峰はまとまった畑が手に入った。BOW! 赤に2022年は巨峰が入ったことにより、前年までの構成が大きく変わった。大きい房の巨峰やピオーネは、高級フルーツとして出荷する場合、結実してから、大きな粒がお互いに押し合って割れないように、何度も粒抜きをし、形を整える等多くの手間をかける必要がある。ペイザナでは、基本的には生食用ブドウの栽培方法で栽培しているのだが、巨峰やピオーネの高級生食用を目指していないので、ヴェレゾーン以降に粒抜きなどの作業は一切行わなかった。全体のバランスを考えて巨峰やピオーネに過度な時間をかけないようにしたところ、結果は残念ながら失敗に終わった。巨峰は収穫前の雨によって多くの実が割れてしまい最終的には収量が1/3、ピオーネはカラスの被害が止まらず9割以上食べられてしまった。2023年はまた違う栽培方法で挑戦する予定。山梨では多くの農家が高齢化などで巨峰の畑を手放していくため、若手がすぐに参入していけるような栽培方法が見つかるようにこれからも手を尽くしていく予定。

ヴィンテージ情報 生産者コメント

2022 山梨 (峡東エリア)

春先から順調に生育していき、峡東地域全体的に開花から6月の空梅雨、少雨が初期のベト病を少なくした傾向にある。各天気予報で梅雨明けの知らせが早かったが、夜中に雨がよく降った印象。8月中旬に雨が降りデラウェアの割れを一部地域で心配したが持ち堪えた。夜中に雨が降る日が多く、さらに日中は全国トップの暑さで寒暖差が早生品種の熟度に良く影響した。ブチマンサンも結果良好、虫の被害が多かった日向も収量を増した。9月に台風が何度もあり、日向の中生品種で割れや晚腐病など病害が心配された。収量はやや落としたものの仕込み中からも既に南の香りがよく感じる。甲州種にとっては房が小さくなる傾向が各地であり、収量制限をかけた区画では厳しい年になった。